

# 開会の挨拶

(財) 集団力学研究所会長

(株) 西日本新聞社代表取締役会長

多田 昭重

皆さん、こんにちは。今日は、よくいらっしやいました。お礼申し上げます。このシンポジウム、毎年恒例ですけれども、参加していただく方がずいぶん多くて大変ありがたく思っております。

私は、この財団法人集団力学研究所の会長を仰せ付かっております、西日本新聞社の多田でございます。本日は、ご多用中にもかかわらず、このシンポジウムに多数ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。開会に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

毎年2月に、このシンポジウムを開催しておりますが、早いもので、今回で27回目を迎えます。また、集団力学研究所は、今年で創立43周年になります。これもひとえに皆さま方からの長年にわたるご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。

ご存じのこととは思いますが、集団力学は、第2次世界大戦中にアメリカで誕生した学問分野です。そして、それをいち早く日本に紹介されたのが、平成14年にお亡くなりになりました、集団力学研究所の創設者、三隅二不二先生です。三隅先生は、戦後間もなく、九州大学に日本で初めての集団力学講座を開設されました。当初は、教師の指導性などを中心に研究を進めておられましたが、その後、産業界に目を転じられ、当時、九州の産業の中核を成していた炭鉱において、研究を展開されることになりました。こうした活動を通して、「集団力学」という言葉が、世間に知られるようになってまいりました。やがて、その研究は、地元の西日本鉄道さん、三菱重工長崎造船所さん、ブリヂストンタイヤさんなどにも展開されていき、さらには、病院、デパート、銀行など、サービス産業の分野にまで広がってまいりました。

「集団力学」というのは、集団、組織、コミュニティなどを科学的に研究し、その成果を実践に移すことを目指す実践的な「人間科学」です。おかげさまで、この集団力学研究所の研究活動は、絶えることなく前進して参りました。1994年には、集団力学の創始者、クルト・レビン教授の名前を冠した、「クルト・レビン賞」を三隅先生が受賞されました。また、2006年には、現在の副所長で、今日もパネリストとして参加されます杉万先生が、国際応用心理学会の名誉会員賞を受賞されております。これらは、集団力学研究所の活動が国際的にも高い評価を得ている証だと自負しております。

さて、本日のシンポジウムですが、集団力学の最も重要な研究テーマの一つであります、「コミュニケーションの集団力学」を取り上げることにいたしました。インターネットをはじめとする通信技術の飛躍的進歩によって、コミュニケーションはとても便利になったように思います。しかし、顔の見えるコミュニケーションはどうでしょうか。「コミュニケーションがうまくいかない。」…そんな職場は珍し

くありません。さらに、医療現場における医師と患者とのコミュニケーションや、教育現場での教師と生徒や保護者とのコミュニケーションでさえ、うまくいかない時代です。コミュニケーションの不足は、事故やトラブル、そして、精神的不調の原因にもなっていると言われております。本シンポジウムでは、コミュニケーションを問い直し、コミュニケーションの困難を打開する方途を探ってまいります。こうした中、私は、このような問題に理論的、実践的にかかわるのは集団力学の使命であると同時に、集団力学にはそのような力が秘められていると確信しております。

今日のシンポジウムでは、テーマにふさわしい素晴らしい方々をお招きすることができました。まず、基調講演では、経営学・経営組織論（知識経営論）がご専門であります、大阪市立大学大学院経営学研究科准教授 川村尚也先生に、「グローバリゼーション時代の知識経営－実践コミュニティづくりのコミュニケーション」と題し、「かつて日本企業が得意としてきた知識経営を、21世紀にはどのように変革していくか」について、お話をさせていただくことにしております。

次に、第2部のパネルディスカッションでは、「今、コミュニケーションを問う… 祭りと異文化に学ぶ」、大変興味深いテーマだと思います。これをテーマに、それぞれのパネリストに、「コミュニケーション」について、さまざまな角度や切り口で、語っていただきます。パネリストには、国際連合人間居住計画（ハビタット）福岡本部（アジア太平洋担当）本部長の野田順康さん、西門蒲鉾本店代表の上田啓蔵さんにご登壇いただくことになっております。本日の基調講演とパネルディスカッションが、皆さま方に「コミュニケーションとは何か」という問題を見つめ直していただく機会になりますことを、私自身、大いに期待しております。

最後になりましたが、本シンポジウムの企画・開催にあたりましては、多くの方々のご支援をいただいております。福岡県、福岡市、北九州市、九州経済連合会、福岡商工会議所、九州経済調査協会、九州生産性本部、福岡県中小企業経営者協会、日本産業訓練協会九州支部、福岡県看護協会などです。大変高いところからではありますが、この場をお借りして、あらためてお礼を申し上げます。本日はどうもありがとうございました。最後まで、よろしく願いいたします。